

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	テクニカル1					
<b>科目基礎情報</b>										
開設学科	ミュージックカレッジ科	コース名	プレイヤーコース（ベース専攻）	開設期	前期					
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間					
単位数	1単位			授業形態	演習					
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。									
<b>担当教員情報</b>										
担当教員	上野 一郎		実務経験の有無・職種	有・プロベーシスト						
<b>学習目的</b>										
<p>この科目を受講する学生は、ベーストとしての基礎を固めると同時に、音楽をより深く理解し、イメージを持って演奏出来ることになることを目指す。</p> <p>ダイアトニックコードスケールや他のスケールを徹底的に反復練習を行い習得する。</p> <p>またフィンガリングトレーニングやコード分散和音など基礎的な技術・知識を習得し、アンサンブルにおける正確なリズム、フレーズを提供できるようにトレーニングする。オリジナル楽曲でのベースライン構築を行えるように基礎技術と基礎知識を身に付けることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										
<p>ベーストとしての基礎をしっかりと身に付けること。1年次修了ライブでのオリジナル楽曲のベースラインを作成し弾くことを目標とする。</p> <p>また基礎知識・基礎技術を身に付け、多ジャンルの楽曲に対応できるようにする。</p> <p>ジャンルに分かれたベースラインを分析しその機能を理解し、自分の中でのベースラインのアイディアを蓄積することもプロフェッショナルとして必要である。そのためにも基礎技術・知識を徹底的に習得することも目標の1つとする。</p>										
<b>教育方法等</b>										
授業概要	この授業では、基本的なリズムやビートなどのベーストにとって重要な概念の理解とその演奏能力の向上、音楽理論の基礎概念の理解を中心に授業を進める。フィンガリングトレーニング、スケール、コード構成音、トラディショナルチューンの譜読み等フィジカル・メカニカルなトレーニングが主となり楽器自体をコントロールできるようなレッスンを行っていく。									
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。配布資料・譜面は毎回持参、毎回行ったレッスン内容の反復練習を欠かさず行う事。特にフィンガートレーニングは毎日の日課にするよう行っていく事。									
評価方法	種別	割合	備 考							
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する							
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する							
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する							
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する							
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する							
<b>授業計画（1回～15回）</b>										
回	授業内容	各回の到達目標								
1回	リズムの概念	ダウンビート、アップビートの概念の理解								
2回	リズムトレーニング①	8分音符のシンコペーションの理解。ベースラインの構成について								
3回	リズムトレーニング②	ビート感覚をしっかりと感じながら演奏する								
4回	楽曲フォームの概念理解	全体のベースライン構成を把握しながら演奏する								
5回	パルスの理解とトレーニング	8分音符のオモテ、ウラの感覚をしっかりと感じること								
6回	ビートパターンの理解	エイトビートの理解								
7回	ビートパターントレーニング①	8分音符のウラをしっかりと感じて演奏する								
8回	ビートパターントレーニング②	エイトビートの感覚をしっかりと感じて演奏する								
9回	音楽理論とベースラインについて①	ダイアトニックコードの理解 1 メジャー・ダイアトニックコードを理解する								
10回	音楽理論とベースラインについて②	ダイアトニックコードの理解 2 マイナード・マイナーダイアトニックコードを理解する								
11回	スケールの理解とトレーニング①	ペンタトニックスケールの理解 1 メジャー・ペンタトニックスケールを理解する								
12回	スケールの理解とトレーニング②	ペンタトニックスケールの理解 2 マイナーペンタトニックスケールを理解する								
13回	ケーデンスとベースライン	コード進行の理解と正確な演奏								
14回	フレーズ・リフトトレーニング	ビートの感覚とフレーズの関係								
15回	楽曲アナライズ（分析）	メジャー・ペンタトニックスケールが使われたフレーズの理解、正確な演奏								